

2023 年度「中国ろうきんNPO寄付システム」応募用紙_様式 2

(事業名称)

「猪侵入抑止フェンス設置事業」(2023年12月27日着工決定)(2024年2月24日着工)

(事業概要)

2023年初めごろから「広島県立後山公園」の周囲約1kmに猪の侵入を抑止するためのフェンスを設置する事業に着手しました。この事業は「税金を使わない公共工事」として、広島県において本会が初めて取り組む「NPOによる土木・建築施設整備工事」となります。

(事業の目的)

本会は「松枯れと野犬と暴走族と不法投棄のゴミの」と呼ばれた福山グリーンラインをよみがえらせ、住民の憩いの場所・福山の観光スポットとするため20数年にわたって様々な活動を続けてきました。その結果松枯れの樹は無くなり、野犬も見かけなくなり、暴走族も排除されて33年間続いた「二輪車通行禁止規制」も解除され、不法投棄のゴミも激減し、大勢の人々が訪れる場所になってきました。



しかし近年新たな課題が浮上してきました。それが「猪被害の増加」です。

沿線各所の公園はどこも猪に掘り返され、昼間に猪と遭遇することも増えてきました。

その中で特に被害が深刻な場所が「広島県立後山公園」です。10年程前から被害が顕在化し、公園中を猪が掘り返し、来園者が歩くことさえままならず、子供が躓いて転ぶなどという事も起きています。



本会もこうした被害の深刻化に合わせ、都度復旧作業を行ってきましたがその費用と労力の負担に会の財政ひっ迫が懸念される事態となっています。このため抜本的な対策を広島県と協議してきましたが、広島県は予算難を理由に積極的な対応をしてきませんでした。

しかし、この事態に対する対処が遅れば環境の悪化だけでなく、来園者の身体・生命の安全が脅かされる事態になることが危惧されます。

2023 年度「中国ろうきんNPO寄付システム」応募用紙_様式 2

このため本会は様々な資金獲得の努力を行い、「コメリ緑育成財団」からも助成金の決定をいただき、資金面の目途が立ったことから、NPOが公園施設の整備を行う事を目的とした事業に着手しました。

（この事業で訴えたいこと）

私たちは様々な理由から「NPOには不可能」と言われてきた事業に、新たな道筋をつけることに成功しました。

「不可能」と言われた主な理由は以下の通りです。

- 1、公共の場所の大規模な施設整備を民間が行う事を行政が認めた事例がない。
- 2、認めた事例が無いので行政の許可手続きの方法が見つからない。
- 3、NPOがこれほどの規模の土木建設工事の経験や技術を有することは困難。

しかし私たちは「たとえ不可能に見えても、それが公共のために必要で重要な事であるなら、課題に取り組む価値がある。」と考え、こうしたひとつひとつの課題の解決に取り組んできました。

「公共工事をNPOが主体となって行う」という事例を作ることになったことは、公共の場所の環境や安全が行政だけで守れなくなっている今、それをNPOが補完するという解決策もあることを示せた意味は大きく、行政関係者にもNPOや地域の自治組織や各種民間団体にも是非ともこうした事例があることを知ってほしいと思います。

（事業の成果）

以前から本会は猪被害抑止の為の様々な情報収集を行ってきました。またそれらの情報に基づき 2022 年から「猪忌避剤による獣害抑止対策」の試行も行ってきました。

こうした知識・技術・経験の蓄積に基づき「公園の安全対策としてはフェンスの設置が最も効果が期待できる」との結論に達し、2022 年末頃から広島県に対しフェンス設置の提案や要望を行い、「広島県に予算が無いなら本会がこれを行うので許可してほしい」との提案を行いました。

この事業計画に対し国立公園を所管する環境省は極めて迅速に「当該事業を行う事は問題ない」との回答をしていただき、これにより後は「広島県がどのような理由付けで、どのような行政手続きでこれを許可するのか、どのような条件でこれを許可するのか？」という問題に集約される事になりました。様々な紆余曲折を経て、ようやく本会と広島県との間で合意することが出来ました。

広島県から「手続きの詳細については追って説明するが、今回の事業を許可する方向で決定した。」

との連絡があったのは 2023 年 12 月 27 日でした。年末ではありましたが速報として全会員に広報し、ともに喜びを分かち合うことが出来ました。これでほぼ事業が完了したと言えます。

後日の話になりますが、実際の工事は 2024 年 2 月 24 日に着工できました。今回の工事は 100m ですが、大きな一歩を踏み出すことが出来て感無量です。

